

	10YFP SPP プログラム	Asia-Pacific GPPEL(旧: ASEAN+3)	SPPEL	Advance SCP(先行PJ:SCP4LCE)	SWITCH-Asia II	APRSCP
主催者	・UNEP(仏) <Co-Lead> ICLEI、KEITI(韓国)	・UNEP(仏)	UNEP(仏)	GIZ(ギズ、ドイツ) ドイツ連邦環境・自然保護・建設・原子力安全省(BMUB)	EC(協力:UNEP)	APRSCP
活動の中心メンバー、パートナー	マルチステークホルダーアドバイザリー委員会(MAC) ICLEI、KEITI、EPA、SPLC、FSC、Eco Mark、IGPN 他、世界各国 101 機関(2016年12月)	KEITI(韓国)、MEP(中国)	EC	タイ(PCD、TEI 等)、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム	EC	ARPSCP、東南アジア諸国
対象地域	世界各国	ASEAN 地域、日中韓	・コーノ・スール(南米) ・東ヨーロッパ ・インド、モンゴル、ベトナム ・モロッコ、トーゴ	タイ+東南アジア	アジア地域 18 カ国にてプログラムが展開	アジア太平洋地域
実施時期	2014年4月～	2013年～2016年(同テーマの新プロジェクトもしくは期間の延長を申請予定)	2013年～2016年	2015年～2018年の3年間プロジェクト(先行PJ:2012年～2015年)	2014年～2020年(SWITCH-ASIA:2007年～2013年)	1997年～
予算		中国、韓国が多くを拠出	UNEP および EC(予算額不明)	200万ユーロ(約2億6,000万円、1ユーロ≒130円) ドイツ連邦環境・自然保護・建設・原子力安全省(BMUB)が拠出	1億2,000万ユーロ(約157億円、1ユーロ≒130円) ※7年間	UNEP と国際連合工業開発機関(UNIDO)より支援
キーワード	SPP、環境ラベル	SPP、環境ラベル	SPP と環境ラベルの複合的な推進によりサステナブル製品の需要と供給を高める	GPP、SPP、環境ラベル、気候変動、東南アジア	アジアを持続可能な消費と生産(SCP)にスイッチする	SCP、10YFP、AEC(ASEAN 経済共同体)、クリーナープロダクション、GPP、環境ラベル
目的	・ SPP の有効性や知識の向上 ・ 協力関係の強化とキャパシティビルディング(能力強化)のツールとしての利便性を改善し、現場レベルで SPP の実施を支援する	・ <b>ASEAN 地域</b> において SPP と環境ラベルに係る政策・技術支援の強化(日中韓の知見・経験共有による) ・ ASEAN+3 地域の広範囲で SPP の効果的な参加を促す	・ 環境ラベル制度の活用による GPP/SPP 制度の導入・促進 ・ 上記に係るキャパシティビルディング、ガイドライン・ツールの開発 ・ 自主的な基準や環境ラベルの調和に向けた地域協力を実施する	・ タイ国内および東南アジアの既存の環境ラベルに気候変動に関する基準を組み入れる ・ タイの GPP の強化 ・ タイでの新しい GPP の戦略を東南アジアの国々に広める	国や地域の政策枠組みと SCP の実践を促進する政策支援コンポーネントが含まれる。グリーン成長、貧困削減など環境問題を広く対象	以下を目的とした円卓会議の実施 ・ アジア太平洋地域における SCP の実現・促進に向けたベストプラクティスや各種プログラム、地域イニシアチブ、教訓等の情報共有を図る ・ SCP 実現のための取組みである 10YFP の導入を積極的に取り組むための協力体制を構築
活動内容	下記ワークエリア 1～4 のもと各ワーキンググループ(WG)が形成され、WG のコンセプトに沿ってそれぞれ活動が行われている。 ・ SPP の導入・実施 ・ SPP の実施状況と影響の評価 ・ SPP 実施の障壁の解決、解決策の提案・普及 ・ 民間セクターとの連携の推進 ※エコマークは WG4b に参加	・ GPP と環境ラベルの専門家や政策立案者による ASEAN+3 ネットワークの構築、およびネットワークの年次会議の準備 ・ GPP と環境ラベル実施に関する ASEAN 地域でのケーススタディ開発 ・ 地域のキャパシティビルディングを通じた GPP/環境ラベルの知識の共有 ・ SPPI グループの連携による地域でのワークグループの設置を通じた GPP 政策および環境ラベル制度の向上	<u>地域レベル</u> ・ 当初は、コーノ・スール(南米)と東南アジア(ASEAN 諸国)に焦点を当てていたが、現在は参加国が変わってきている。(カザフスタン等が追加) ・ 南南協力、地域統合、自主的基準の協力、経験の共有、SPP 実施のための共同研修の推進 ・ 活動内容は GPPEL とほぼ同じ	・ GPP/環境ラベルの導入・促進 ・ 地域間の環境ラベル相互認証の推進 ・ 地域ワークショップ:GPP と環境ラベル ・ 環境ラベルの活用促進 ・ Advance SCP の成果をもとに、その成果を水平展開できる国・地域の特定	<u>認定プロジェクト</u> アジア地域における SCP 促進と EU-アジア間パートナーシップの強化を目的とする非営利組織を支援するプロジェクト。 2016年1月時点では、78の認定プロジェクトがアジア20カ国で実施されており、プロジェクト期間は24～48カ月、平均予算は200万ユーロ(約2億6千万円)である。 <u>政策支援コンポーネント(PSC)</u> タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピンにて、SCP を推進することを目的に、UNEP の 10YFP と連携し展開している。	・ 18～24 カ月毎に円卓会議を開催 ・ アジア太平洋地域の SCP 実現・促進のためのベストプラクティスや各種プログラム、地域イニシアチブ、教訓等の概要をまとめる ・ 今後3年間に於いて SCP 実現のために、ステークホルダーのようなツールや方法論を採用するか、推奨プログラムの紹介を介してサポートする ・ 地域に向けたキャパシティビルディングや報告・評価手法、資金調達に関する取組み等の推奨プログラムを紹介・取りまとめる
手段	会議、調査研究、テスト実施、キャパシティビルディング、ツールの開発、情報交換	年次会議・ワークショップ、ケーススタディの実施、キャパシティビルディング、ネットワーク	地域連携グループの結成、ワークショップ、キャパシティビルディング	ワークショップ、キャパシティビルディング	ワークショップ、キャパシティビルディング、資金援助	円卓会議による情報共有やワークショップの実施
日本	MAC:IGPN、エコマーク	環境省、IGPN、エコマークがワークショップに参加(2013年～2016年 ※2015年は講師として参加)	—	ワークショップ:エコマークが講師として参加(2015年、2016年)	—	2014/5 の第 11 回 APRSCP に IGPN が講師として参加。エコマークも参加。
重要度	★★★	★★★	★	★★★	★	★★
その他	・ MAC 会議(電話会議:2～3ヶ月に1回) ・ GPN は 10YFP の別プログラム CIP の MAC メンバー	・ 中韓が資金提供し主導している。 ・ 2013年:韓国、2014年:タイ・中国、2015年:マレーシア、2016年:中国でワークショップを開催。	・ SCP 情報センターから定期的に情報を得る。 ・ 南米地域(コーノ・スール)での活動が活発	・ 豊富な資金を背景に多くのワークショップを定期的に開催し、各国に堅固なネットワークを有する ・ GIZ が主導し、タイの GPP が飛躍的に発展(基準数の増加、ツールの開発、環境評価) ・ GEN、SPPEL と協力	・ EU の巨大な資金力と人的資源を活用し、積極的にアジア地域にて多様なプログラムを展開。 ・ モンゴルは、認定プロジェクトにより環境ラベル制度の立ち上げを計画。 ・ 日本は対象外	・ 第 12 回 APRSCP が 2015 年 7 月に開催。 ・ 第 13 回はマレーシアにて開催予定

	SPLC	GEN	APO
主催者	サステナブル購入リーダーシップカOUNシル(SPLC):非営利団体	世界エコラベリング・ネットワーク(GEN)	アジア生産性機構(APO):国際機関
活動の中心メンバー、パートナー	主に米国内 購入者:大学、省庁、サプライヤー:企業、マーケットアドバイザー、パートナー	日本を含む正会員 26 機関、準会員 2 機関	日本を含む 20 カ国・地域 (中国は含まず)
対象地域	当初は北米のみだが、国際的に展開していく予定。	世界のタイプ I 環境ラベル機関	国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)のアジア・太平洋地域加盟国 バングラデシュ、カンボジア、台湾(中華民国)、フィジー、香港、インド、インドネシア、イラン、日本、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナム
実施時期	2013 年 7 月設立	1994 年設立	1961 年設立
予算	資金はメンバーから拠出されていると予想	15 万 US ドル(会費、寄付)	各国が拠出。日本からの援助大
キーワード		環境ラベル機関のネットワーク	生産性の向上、緑の生産性(GP)事業
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品やサービスのライフサイクルを考慮し、それらを購入することによる社会的、環境的、経済的な影響に優先順位を付ける</li> <li>これらの優先順位に対応する既存の優れた標準やアプローチを識別する</li> <li>目標に向け進捗状況をベンチマークする</li> </ul>	製品やサービスの環境ラベリングを改善、促進および策定	生産性向上を通してアジア太平洋地域の持続可能な社会経済の発展に貢献する
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーシップ:優れたサステナブル購入実践者のネットワークと実践をするためのコミュニティ</li> <li>ツールの開発:サステナブル購入ガイド、測定およびベンチマーキング</li> <li>専門家の育成:サステナブル購入の研修カリキュラムおよび認定</li> <li>招集:会議、展示会、ワークショップおよび専門家の集い</li> <li>表彰:サステナブル購入運動を推進する組織や個人を表彰する</li> <li>優れた取り組みの評価プログラム:評価システムの開発と管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境ラベル制度の改善、促進、および策定</li> <li>環境ラベル表示についての協調、情報交換、および調整を促すこと</li> <li>環境ラベル基準に関する情報にアクセスの改善</li> <li>国際的な組織に参加して環境ラベル表示の推進</li> <li>より環境に責任を持てる製品やサービスの需要と供給の奨励</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国生産性本部の強化および中小企業の振興・地域発展の促進</li> <li>イノベーション主導の生産性向上</li> <li>緑の生産性の普及:加盟国と共同で環境保全技術の普及や、環境配慮型製品・サービスの需要の推進</li> </ul>
手段	コミュニティの形成、専門家の育成、ツールの開発、表彰	情報交換、年次総会、ワークショップ、GENICES(内部監査システム)	研修、エコプロダクツ国際展、エコプロダクツディレクトリー等
日本	—	エコマーク:役員、総務事務局	外務省、農水省、(環境省) エコマーク、IGPN 等
他の取り組みとの関連		UNEP 及び GIZ との協力を模索 他のプロジェクトの協力・支援	
重要度	★	★★★	★
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCP 情報センターから情報を得る。 (Ms)Anastasia O'Rourke <a href="mailto:anastasia.orourke@dekra.com">anastasia.orourke@dekra.com</a> SPLC の発起人の 1 人。SPPI の MAC 委員でもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコマークは従来通り、役員・総務事務局を務め、GEN に貢献する。</li> <li>環境省は例年年次総会に参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2013 年 e-ラーニングプログラムにて講師として参加</li> <li>2014 年バングラデッシュでのプログラムに参加</li> <li>2016 年日本で開催されたプログラムに講師として参加。</li> </ul>